

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 162 平成28年7月15日

発行 社会福祉法人武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

特集 平成27年度事業報告書(抜粋)



Café BUNBUNスタッフ
(文京総合福祉センター)

トピック 三浦理論

「社会福祉学における三浦理論の検証と継承」というテーマで開催された日本社会福祉学会の大会に参加しました。

三浦文夫先生は昨年亡くなりましたが、日本社会事業大学の学長等として学術研究に携わる傍ら、国や東京都、世田谷区などの社会福祉関係審議会の委員長等を長く務め、我が国の社会福祉の理論と政策をリードして来た方です。

三浦理論で出てくる「ニード」(要援護性)や「非貨幣的ニード」等の概念は正しく理解しておく必要があるのですが、このニードを充足する効果的で効率的なサービスについての追求等の研究成果は、今日の我が国の社会福祉の制度や政策に少なからず反映されています。

すなわち、貧困対策としての社会福祉から一般的、普遍的サービスとしての社会福祉への転換、サービスの生活近接化、供給主体の多元化、基礎的自治体等による計画化、公的責任を担保する仕組み、地域福祉の推進などです。

都道府県、市区町村、社会福祉協議会等による三相の地域福祉計画の策定、地域トータルケアサービス、ケアマネジメント等、新たなシステムの導入は、東京都が先駆けて実現し、その後に全国化したものですが、これらも同様です。

三浦理論は、過去の福祉八法改正や社会福祉基礎構造改革に影響を与えましたが、社会福祉法人制度改革を柱とした今回の社会福祉法改正には直接の関係はありません。しかし、在宅福祉サービス論で先生が求められていた、施設の高度化や多様化による、施設を拠点とした在宅福祉サービスの展開や、その他様々な地域福祉機能の発揮は、今日に生きるものであり、今後さらに目指していく必要があると思います。

法人職員の皆さんに、日々の実践と社会福祉理論とを結びつける研究をしてくれる方が増えることを期待しています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

平成27年度 社会福祉法人武蔵野会 事業報告書(抜粋)

運営全般

27年度は第4期中期計画の1年目であると同時に、法人長期計画の10年目の節目の年度であった。運営委員や施設長の定年退職が増す中、今後の長期計画を立てるために、これからの3年間を武蔵野会の運営を次世代に引き継ぐ準備期間と位置付けた。

理念の継承

次世代への継承の基本は、法人理念である「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」の継承である。今年度は管理職、役職も含め全職員を20人から25人程度に分け、年間を通して25回のダイアログ研修(参加者がより多くの人と話し合えるために、1テーブルを4・5人で6テーブル程度に座り、各テーブルを周りながらテーマに添って検討する方法)を行った。25回の研修には、すべて理事長、本部長が参加し、参加者全員が理念に関連した同じテーマで話し合う機会を設けた。理事長と本部長が全職員と同じ立場で、理念について話し合えたことは、職種、職

地域公益事業

社会福祉法の改正が年度末に行われ、その対応について、情報の収集を行い、運営会議や施設長会議で周知した。法人運営について、法令遵守や財務規律の強化が謳われ、適正かつ公正な会計管理により余裕財産を明確化し、福祉サービスや地域公益事業への再投下の計画と実施が責務化される。理事会、評議員会でその内容を周知し、改正への工程を確認した。

法の改正を待つまでもなく地域公益事業(社会貢献事業)については、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV長期療養者の福祉施設の受け入れ」、触法障害者の地域定着支援、法人成年後見の推進、東北大震災被災地への毎月1回の支援を継続した。さらに、生活困窮者の支援(東京都社会福祉協議会の中間的就労促進事業「はたらくサポートとうきょう」)の立ち上げに法人として協力し、既に中間的就労を行っている光が丘福祉園の取り組みが「はたらくサポートとうきょう」のテキストに掲載された。また、触法障害者の支援は、練馬福祉園、さくら学園、大島恵の園などで新しく受け入れた他、触法障害者の裁判への協力、いわゆる入り口支援にも着手した。さらに、東京都及び周辺地域の関係法人や弁護士、

責、年代、経験年数を越えて、武蔵野会の職員としての共通理解が深まり、次世代への理念の継承の準備として、武蔵野会にとって貴重な機会となった。その他、各地区での理念研修、実践事例報告会や支援実践集の作成についても、理念実践の共有の場として大変に重要であり、欠かすことのできない基本的な実践として継続した。

人材育成

第4期中期計画として、今後10年の法人経営計画について、若い職員を中心に検討するプロジェクトチームを立ち上げることにしているが、27年度は、産能大にコンサルティングを依頼し、役職を中心としたプロジェクトが、これまでの研修内容を検討し、これからの武蔵野会の人材育成を含めた研修計画の作成に取りかかった。この実践を経て、これからの10年の法人経営計画プロジェクトに繋げる。

計画の策定と共に、その実践の鍵を握る施設長をはじめ管理職、役職の多面評価や一般職員も含めた職場風土診断も継続し、その結

教員などの個人で構成する触法障害者等の生きにくさを抱えた人たちの支援者ネットワークの活動に加わり、法人化に向けて中心的な立ち場で実践した。

プロジェクト

今年度から、運営委員による以下の6つプロジェクトを開始した。
①利用者契約書の法人統一書式の策定
②本部移転計画の立案
③子育て支援制度の検討
④10カ年計画策定推進
⑤理事会・評議員会の陪席と議事録作成
⑥人事関係(職員採用、人事システム)補助であり、それぞれの実施状況は次の通りである。
①は契約書作成が終わりホームページにアップし終了した。
②は資金の目処が立つまで保留とした
③は委員会、拡大委員会を経て課題を抽出し、出来ることから実践を開始した。
④は前述の通り役職者PTの実践を通してメンバーを選定する
⑤は理事会、評議員会に運営委員が出席することより、法人運営への認識が深まった。
⑥の職員採用は施設長が出身大学へ訪問するなど法人全体で行う方向性を示したが、次年度に向けては説明会の開き方などの再検討が必要となった。人事システム導入後の有効活用については未着手となった。

果をもとに、フィードバック研修を行った。施設長、役職が職員の意見に耳を傾け、日常の自身の働きを真摯に振り返る機会となった。その結果をもとに施設長、役職としての行動目標を作成した。職場風土調査は、入所施設を中心に行い、施設としてのチームワークの状況を把握し、より良い職場風土の醸成に繋げた。

施設の建て替え

小平福祉園、さくら学園、武蔵野児童学園、八王子福祉作業所の4施設の建て替え計画に関する資金計画は、そのための規程を作成し、理事会を経て承認された。小平福祉園の建て替えは11月に完成し支払いが完了したが、他の3施設の建て替えと、今後の建て替え計画を念頭において、資金計画に沿った各施設の「財務基盤の安定」について諸会議で意識を強化した。各施設が利用者や地域の福祉ニーズに応えることで健全な経営を継続し、法人への安定した繰入金金を確保することが資金計画の前提となるからだ。各施設の利用率の向上、プラスワン新規事業を施設の重点目標とし、地域包括ケアの実践に積極的に関与し、複合的、非定型な福祉ニーズに対応する実践については、施設によって差が出た。

防災対策

防災関係では、各事業所で事業継続計画(BCP)を作成するとともに、日常的に防災訓練を実施したが、各地区での防災チームの結成や管理職、役職が取得している防災士の資格を生かす避難所設営訓練の実施は次年度以降とした。安否確認システムの推進は、法人係長が各施設を回って説明し、体制を整えた。また、日本福祉大学と提携し法人間で協定を結んでいる防災ネットワークが、具体的な防災、減災の協力体制の構築のために動き出し、次年度には武蔵野会で研修会が予定されている。

会議

理事会は264回から268回まで、定例の5月、9月、1月、3月と臨時理事会が11月に行われ計5回行われた。評議員会は9回から12回までの4回が理事会の前に行われた。法人運営会議は毎月1回行われ、採用、規程、資金計画、各施設の状態など、法人運営に関わる決定や報告、理念に基づいた支援方針の確認、支援実践の報告などを行い、会議結果は各地区会議で地区長が報告した。地区会議は毎月、施設長会議は隔月で行い、その日に併せて施設長研修を行った。

むさしの武蔵野

手話を学んで

昨年、当センターの所長に就任しましたが、聞こえに不自由な利用者の方とのコミュニケーションをとりたいたいの思いから、手話の勉強を始めました。そうした中、今年の5月の連休、私は、手話について深く考察し一冊の書籍に出会いました。多文化共生や社会的包摂という観点からも大変示唆に富むもので、思わず一気に読み進みました。

本のタイトルは「手話を生きる」で、副題として「少数言語が多数派日本語と出会うところで」とあります。著者は斉藤道雄という方です。氏はジャーナリストであり、品川区にある「明晴学園」という私立のろう学校の校長も務められた方です。同校では、日本で初めて、そして唯一第一言語をろう者の母語である「日本語」とし、第二言語を「日本語」とするバイリンガル教育を行っています。

本書によれば、日本には手話が二通りあり、日本手話以外のもう一つは、「日本語対応手話」と呼ばれるもので、これはいわば聴者の側からの手話であって、日本語の会話を手話の単語に置き換えた「人工言語」とのこと。聴者や中途失聴者には覚え易く、私が今学

んでいるのも日本語対応手話となるようです。

これに対し、日本語は言語学的には、単なるジェスチャーの集合体ではなく、複雑で洗練された文法構造を持つ完全な言語であり、日本語や英語と同じように、人間の集団間の時間や空間を自然に発生し、長い間時間をかけて使われてきた「自然言語」だそうです。ちなみにアメリカにおいても、英語と「アメリカ手話(ASL)」は異なる言語とされています。

本書では、聴者の視点から日本手話を否定し、ろう児に対し、ひたすら日本語により発音することを強いて来た、ろう教育への痛烈な批判が展開されています。

さて、本書に見る普遍的なテーマとすれば、日本語を母語とする「多数派」が、日本語を母語とし、ろう文化を共有する「少数派」の立場をどう尊重するかということと言えます。国においては、現在「手話言語法」の制定が進められています。今改めて思うことは、多様性を認め合える社会こそ健全な社会であるということです。いわゆる「包摂」とは「同化」ではありません。多様な個性が肯定され、その持てる能力を伸ばし活用することのできる社会の実現を願って止みません。

八王子市心身障害者福祉センター
所長 峯尾 常雄

事業活動計算書
(自)平成27年 4月 1日 (至)平成28年 3月31日

第2号の1様式
(単位:円)

勘定科目		当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	613,839,822	485,500,169	128,339,653
	児童福祉事業収益	365,404,733	307,126,287	58,278,446
	就労支援事業収益	84,525,965	63,587,187	20,938,778
	障害福祉サービス等事業収益	6,385,786,710	5,927,107,324	458,679,386
	収益事業収益	2,160,000	2,160,000	0
	経常経費寄附金収益	17,056,070	27,041,087	-9,985,017
	その他の収益	13,435,496	6,476,796	6,958,700
	サービス活動収益計(1)	7,482,208,796	6,818,998,850	663,209,946
	費用			
	人件費	4,812,934,111	4,454,625,363	358,308,748
	事業費	938,351,924	846,616,507	91,735,417
	事務費	1,137,287,680	986,592,074	150,695,606
	就労支援事業費用	84,745,419	65,026,799	19,718,620
	収益事業費用	879,452	897,222	-17,770
	利用者負担軽減額	428,472	444,889	-16,417
減価償却費	278,834,038	224,082,112	54,751,926	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-133,110,257	-116,487,901	-16,622,356	
サービス活動費用計(2)	7,120,350,839	6,461,797,065	658,553,774	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	361,857,957	357,201,785	4,656,172	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	1,109,666	2,734,131	-1,624,465
	その他のサービス活動外収益	83,087,126	89,212,977	-6,125,851
	サービス活動外収益計(4)	84,196,792	91,947,108	-7,750,316
	費用			
	支払利息	49,260	0	49,260
その他のサービス活動外費用	42,804,609	41,277,253	1,527,356	
サービス活動外費用計(5)	42,853,869	41,277,253	1,576,616	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	41,342,923	50,669,855	-9,326,932	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	403,200,880	407,871,640	-4,670,760	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	2,182,831,000	48,408,000	2,134,423,000
	施設整備等寄附金収益	10,678,317	0	10,678,317
	固定資産売却益	11,748	0	11,748
	その他の特別収益	4,791,612	0	4,791,612
	特別収益計(8)	2,198,312,677	48,408,000	2,149,904,677
	費用			
	固定資産売却損・処分損	927,415	240,627	686,788
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	-1,389,637	-22	-1,389,615
	国庫補助金等特別積立金積立額	1,443,694,950	22,982,400	1,420,712,550
その他の特別損失	353,418	5,243,190	-4,889,772	
特別費用計(9)	1,443,586,146	28,466,195	1,415,119,951	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	754,726,531	19,941,805	734,784,726	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	1,157,927,411	427,813,445	730,113,966	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	3,816,988,127	3,154,619,922	662,368,205
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	4,974,915,538	3,582,433,367	1,392,482,171
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)	1,976,493,885	1,020,078,479	956,415,406
	その他の積立金積立額(16)	181,289,213	785,523,719	-604,234,506
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	6,770,120,210	3,816,988,127	2,953,132,083

貸借対照表
平成28年 3月31日現在

第3号の1様式
(単位:円)

資産の部			負債の部				
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	3,900,079,420	2,226,259,335	1,673,820,085	流動負債	990,925,191	339,982,424	650,942,767
現金預金	2,129,530,680	1,497,224,604	632,306,076	短期運営資金借入金	100,000,000	0	100,000,000
事業未収金	1,508,777,566	639,492,421	869,285,145	事業未払金	608,808,548	136,044,183	472,764,365
未収金	2,290,937	1,510,307	780,630	1年以内返済予定設備資金借入金	9,371,576	2,630,000	6,741,576
未収補助金	99,083,329	14,711,877	84,371,452	1年以内返済予定リース債務	11,501,220	1,350,756	10,150,464
受取手形	86,734	114,490	-27,756	未払費用	59,601,448	60,226,841	-625,393
立替金	121,750,181	41,696,835	80,053,346	預り金	119,228,869	54,066,577	65,162,292
前払金	9,992,731	8,127,226	1,865,505	職員預り金	35,163,478	33,492,955	1,670,523
前払費用	14,728,079	9,885,897	4,842,182	前受金	120,000	204,000	-84,000
仮払金	13,839,183	13,495,678	343,505	前受収益	596,650	201,000	395,650
固定資産	9,336,212,615	7,330,269,298	2,005,943,317	仮受金	46,533,402	51,766,112	-5,232,710
基本財産	4,183,845,392	2,475,183,364	1,708,662,028	固定負債	968,553,786	406,855,618	561,698,168
土地	409,827,613	409,955,174	-127,561	設備資金借入金	552,218,424	34,190,000	518,028,424
建物	3,774,017,779	2,065,228,190	1,708,789,589	リース債務	33,790,120	3,066,012	30,724,108
その他の固定資産	5,152,367,223	4,855,085,934	297,281,289	退職給付引当金	382,115,242	369,169,606	12,945,636
土地	178,207,752	178,207,752	0	長期預り金	430,000	430,000	0
建物	559,615,243	514,084,366	45,530,877	負債の部合計	1,959,478,977	746,838,042	1,212,640,935
構築物	110,868,659	49,697,817	61,170,842				
機械及び装置	3,911,048	848,609	3,062,439	純資産の部			
車輛運搬具	23,604,818	16,782,625	6,822,193	基本金	651,397,735	651,397,735	0
器具及び備品	213,654,530	163,809,737	49,844,793	基本金	651,397,735	651,397,735	0
建設仮勘定	2,519,449,428	640,724,565	1,878,724,863	国庫補助金等特別積立金	2,752,427,949	1,443,232,893	1,309,195,056
有形リース資産	38,553,292	4,416,768	34,136,524	国庫補助金等特別積立金	2,752,427,949	1,443,232,893	1,309,195,056
権利	1,052,580	1,019,250	33,330	その他の積立金	1,102,867,164	2,898,071,836	-1,795,204,672
ソフトウェア	9,830,652	13,141,038	-3,310,386	徴収不能積立金	1,250,000	1,250,000	0
退職給付引当資産	382,115,242	369,169,606	12,945,636	措置施設特定積立金	7,246,858	7,246,858	0
徴収不能積立資産	1,250,000	1,250,000	0	施設整備積立金	232,780,594	2,045,785,266	-1,813,004,672
措置施設特定積立資産	62,923,858	76,847,858	-13,924,000	人件費積立金	857,619,712	839,819,712	17,800,000
施設整備積立資産	204,780,594	2,003,861,266	-1,799,080,672	工賃変動積立金	3,970,000	3,970,000	0
人件費積立資産	829,942,712	812,142,712	17,800,000	次期繰越活動増減差額	6,770,120,210	3,816,988,127	2,953,132,083
工賃変動積立資産	3,970,000	3,970,000	0	次期繰越活動増減差額(うち当期活動増減差額)	6,770,120,210	3,816,988,127	2,953,132,083
差入保証金	8,458,250	4,980,710	3,477,540				
長期前払費用	178,565	131,255	47,310				
				純資産の部合計	11,276,813,058	8,809,690,591	2,467,122,467
資産の部合計	13,236,292,035	9,556,528,633	3,679,763,402	負債及び純資産の部合計	13,236,292,035	9,556,528,633	3,679,763,402

武蔵野会

セミナー

6月25日土曜日に平成28年度武蔵野会セミナー「すべての子ども
の幸せのために」を、イイノホール
で開催しました。8回目となる今
回のセミナーは、子どもの貧困が
児童の養育環境に及ぼす影響につ
いて考え、いじめや虐待など今を
生きる子どもたちを取り巻く環境
を振り返り、すべての子どもが幸
せのために、地域の社会の中で私
たちは何をなすべきかを共に考え
る機会となりました。

第一部で野尻紀恵氏（日本福祉
大学准教授）に「子育てのための
切れ目のない支援を」テーマに基
調講演をしていただきました。第
2部では「子どもたちにおとなが
向き合う社会に」をテーマに野尻
氏を司会に川松亮氏（子どもの虹
情報研修センター研究部長）、栗
林知恵子氏（NPO法人豊島子ど
もWAKU WAKUネットワー



野尻先生の講演

ク理事長）、村尾政樹氏（公益財
団法人あすのば子どもの貧困対策
センター事務局長）の3人の方に
よるパネルディスカッションがあ
りました。まずは川松氏が虐待に
つながる家庭の状況や貧困などを
踏まえながら親子への支援につ
いて報告され、次に栗林氏が子ども
の貧困の状況や子ども食堂の取り
組みとネットワークでつながること
の大切さを話されました。最後
に村尾氏が「あすのば」の活動及
び貧困対策を自らの体験を通して
紹介してくださいました。

ディスカッションで「おせっかい」
と「つながる」がキーワードとして
浮かび上がり、地域を巻き込んだ地
域の支援が子ども達を守り、育て
ていく場を作り、その広がり社会
福祉法人がどう貢献していけるの
かを考える機会となりました。

実践報告表彰式

武蔵野会セミナーの会場で、平
年度支援実践報告集の表彰式が執
り行われました。

今年度の最優秀賞は、大島恵の
園の「行き辛さからの脱却」が選
ばれました。「広汎性発達障害があ
り支援困難から数々の施設を転々
としてきたケース。新たな視点で
支援の再構築を行い、著しい成果
を上げた記録で、利用者本位の支
援の継続はまさに理念の実践であ
り、相互変容のモデルとなる」と
高い評価が選考の理由でした。

優秀賞には、東堀切くすのき園、
リアン文京、八王子生活実習所、
八王子福祉作業所の事例、4編が
選ばれました。



最優秀賞の表彰



大島恵の園
生活介護として日中活動に力を
入れています。利用者の皆さんは、
毎日生活棟から歩いて活動棟に行
き、陶芸、結び折り、手芸、園芸
などに参加しています。日中活動
は利用者の生活の柱のため、更に
内容の充実が期待されています。

さくら学園

5月21日、「花祭り」を開催し
ました。自治会「さくら」役員の
皆さんの歌から、華やかなフラダ
ンス、ジャグリングを得意とする
大道芸人「わっしょいゆーた」さ
んのパフォーマンズで盛り上がり
ました。施設整備の関係で手狭な
会場でしたが、家族の皆さんとア
ットホームな楽しい時間を過ごす
ことができました。

えみふる

おしゃべりをする人形の寄付が
ありました。入口カウンターに置
くと、通りかかった生活介護利用
者が嬉しそうに抱っこをしたり、
地域活動支援センターを訪れた方
が楽しい返事を期待して語り掛け
たりと、置いてあるだけで皆さん
の笑顔があふれます。

さね川福祉作業所

近隣特養ホームでの車椅子清掃
作業を開始しました。利用者の方
の自転車リサイクル（自転車磨
き）実習での経験とスキルを活か

文京福祉

センター湯島

文京福祉センター江戸川橋

武蔵野会では、昨年度から文京
福祉センター江戸川橋の管理を指
定管理者として受任してしました
が、今年度4月から、湯島総合セ
ンターの3階フロアにある「文
京福祉センター湯島」も同様に受
任し、江戸川橋の分場として一体
の運営を行っています。

文京福祉センター湯島の事業は、
健康増進や生きがいづくりを推進
する老人福祉センターA型事業と、
地域の市民団体やサークルの方が
学習会や趣味活動などで施設を使
用する地域福祉振興施設運営です。
これまでの活動が円滑に進むよう
サポートをするともに、武蔵野
会の自主事業も展開します。



湯島総合センター

湯島総合センターは昭和53年建
設の築38年の建物です。その中に
ある文京福祉センター湯島は積み
重ねた歴史により、湯島地区の地
域の方に愛される使い慣れた施設
となっております。

文京区は文化教養的な趣味や活
動をされる方も多く、積極的に新
しい情報や刺激を取り込もうとす
る意識が高いようです。先日、文
京福祉センター江戸川橋でサムゲ
タンとちぢみ作りの料理教室を催
したところ、90歳代の方が4名も
参加されていて、そのお元気な
瑞々しい感性と活力に驚かされま
した。既存の事業を大切に古きよ
き昭和の匂いを残しつつ、平成の
シニア文化を創造すべくがんばっ
ています。

新規事業

小平福祉園

小平福祉園は、仮住まいの西東
京市から昨年の11月に小平市に戻
り、この4月からは、新たに通所
関係の4事業を開始しました。子
供関係は、就学前の療育をおこな
う児童発達支援「すけっち」（定
員10名）と、小学生対象の放課後
等デイサービス「ぱすてる」（定



人気のフロア

員10名）です。また、成人対象の
事業は、生活介護「リーフ」（定
員20名）、就労継続B型「サンラ
イズ」（定員10名）です。
4月1日の入園式、入所式に親
子で緊張して参加されていた皆様
ですが、3ヶ月たった現在は、毎
日楽しみに通っています。市内の
関係者でおこなっている「子ども
の発達を支援する連絡会」の参加
や、幼稚園との連携など、子供を
取り巻く地域の関係者との細やか
なつながりも始まりました。現在、
生活介護と就労継続B型の登録者
は、定員を満たしていませんが、
来年の利用に向け特別支援学校の
3年生の見学者が毎日のように訪
れます。就労継続B型の活動の場
所でもある喫茶店「憩いとパンの
店フロア」は、市内のパン屋さ
んのご指導のもと、毎日の焼きた
てパンの販売は人気です。



永年勤続表彰

6月15日に武蔵野会の永年勤続を表彰する式を、パレスホテル立川にて開催しました。

今年度の表彰者は、勤続40年表彰者が1名、30年が7名、20年が4名、10年が13名の、合計25名でした。

理事長から全員への表書状授与の後、受賞者を代表してすぎな愛育園の児島早苗職員が謝辞を行いました。

ました。「仕事を通し、成長する機会を戴いていることに日々感謝している」との内容が印象的でした。



永年勤続表彰者のみなさん

お知らせコーナー

7月

- 23日(土) ひかりまつり(練馬区立光が丘福祉園)
- 30日(土) 夏祭り (八王子地区)
- 31日(日) 夏季帰省 ~8/7(日) (大島恵の園・第2大島恵の園)

8月

- 1~3日(月~水) 第56回お花茶屋ふるさとまつり参加 (葛飾地区)
- 16・17日(火・水) 夏季期間行事(きね川福祉作業所)
- 18日(木) 夏フェス (練馬区立光が丘福祉園)
- 20日(土) 夏休みこども工作教室 (きね川福祉作業所)
- 27日(土) 開設記念音楽祭 (大島恵の園・第2大島恵の園)
- サマーフェスタ (武蔵野児童学園)

9月

- 3日(土) 夕涼み会 (すぎな愛育園・八王子心身障害者福祉センター)
- 17日(土) どんどこ祭(世田谷区立駒沢生活実習所)
- 20・21日(火・水) 宿泊旅行(練馬区立光が丘福祉園)
- 24日(土) GENKIまつり (きね川福祉作業所)
- 25日(日) わたぼうし祭り (八王子生活実習所)
- 29・30日(木・金) 宿泊旅行 (練馬区立光が丘福祉園)

職員募集のご案内

平成29年度新卒採用者向けの職員募集を行います。また、既卒の方は随時採用試験を行っています。ご相談ください。詳しくは、HPをご覧ください。

<http://www.musashinokai.jp>

書類送付先及び問い合わせ先

社会福祉法人 武蔵野会
〒193-0931東京都八王子市台町1-19-3
電話：042-623-8509
FAX：042-623-8539
採用担当：高橋 信夫

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と8つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町1-19-3
電話・FAX 042-626-9772

勤続20年

- 伊藤 麻美 (さくら学園)
- 角田 信行 (さくら学園)

- 山内 哲也 (リアン文京)

- 宮原 康輔 (さくら学園)

- 横尾 泰朗 (光が丘福祉園)

- 山浦 勇次 (小平福祉園)

- 児島 早苗 (すぎな愛育園)

- 樋口 孝行 (さくら学園)

- 富山 孝行 (西水元あやめ園)

勤続30年

- 芹澤 恵子 (さくら学園)

勤続40年

平成28年度永年勤続表彰者

列席された、各施設の保護者会の会長から、お祝いの言葉を戴きました。その後の会食で、家族会の方が、自施設の職員の表彰と一緒に喜んでくださる姿がありました。

勤続10年

- 門井 忍 (希望の里)
- 江藤 陽子 (練馬区立障害者地域生活支援センターすてつぷ)
- 平山 洋介 (さくら学園)
- 高野 芳光 (さくら学園)
- 萩野 直人 (駒沢生活実習所)
- 藤島 郁美 (八王子市心身障害者福祉センター)
- 真野 洋美 (九品仏生活実習所)
- 甲賀 清美 (西水元あやめ園)
- 野村 貴男 (西水元あやめ園)
- 永田 孔二 (東堀切くすのき園)
- 齊藤 元臣 (白鳥福祉館)
- 梅山 哲也 (武蔵野児童学園)
- 高橋加壽喜 (武蔵野児童学園)
- 河野 一行 (大島恵の園)
- 篠原 透修 (大島恵の園)